

LDI-R

Learning Disabilities Inventory-Revised

LD判断のための調査票

LDI-Rは、LD（学習障害）の早期の気づきに有効です。
学校で学習や行動面で気がかりな子どもがいたり、保護者から相談を受けたりしたときに、まずお使いになることをお勧めします。

- ◎わが国ではじめて本格的に標準化された「LD（学習障害）判断のための調査票」です。
- ◎指導者が子どもの様子を評定することによって、基礎的学力のつまずきを明らかにします。
- ◎社会性や行動面の尺度もついているので、学習以外についても知ることができます。
- ◎学校現場での子どもの実態把握に、また専門家チームや専門機関でのアセスメントに幅広い活用が可能です。

著 者	上野 一彦 篁 倫子 海津亜希子
適用範囲	小学校1年～中学校3年
実施時間	20分～40分
価 格	手 引 3,240円(本体3,000円) 検査用紙(30名分) 8,640円(本体8,000円)



関連書籍

最新研究に基づいたLD判断の新しいモデル！

エッセンシャルズ Essentials of Specific Learning Disability Identification 新しいLDの判断

【編 者】D・P・フラナガン、V・C・アルフォンソ

【監訳者】上野一彦、名越斉子

A5判／446頁／価格3,888円(本体3,600円) ISBN978-4-8210-6367-3

読み、書き、算数、口頭表現、リスニングといった学力に関する領域での特異的LD（学習障害）について、発達や原因についての諸理論、様々な援助介入の解説とともに、米国の最新研究に基づいて、特異的LDを判断する有力なモデルを多数紹介している。



■構成内容

LDI-Rは、8つの基礎的学力に行動、社会性を加えた10領域で構成されています。

(基礎的学力)

1. 聞 く……………他者の話に注意を向け、理解する力。
2. 話 す……………口頭の意味伝達、コミュニケーションする力。
3. 読 む……………書かれた題材（文字）を分解し、そこに意味を構成する力。
4. 書 く……………文字や文章をつづる力。
5. 計算する……………計算スキルを使って量的課題を解く力。
6. 推論する……………図形や数量の理解・処理といった数学的思考を含んだ、問題解決に向かって思考する力。
7. 英 語……………中学校から本格的に学習が開始される新たな言語体系。
8. 数 学……………小学校の算数より抽象度も増し、論理的思考を必要とする教科。

「5. 計算する」「6. 推論する」は、学年によって回答する項目数が異なります。

「7. 英語」「8. 数学」は中学生のみ対象とした領域です。

(行動、社会性)

9. 行 動……………落ち着きのなさ、注意力の問題、衝動性。
10. 社会性……………集団行動、対人葛藤場面行動、社交性。

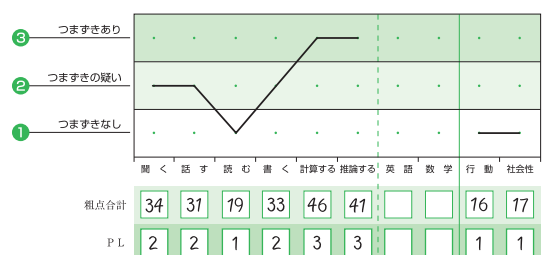
■実施と採点

- 子どもの学習状況を熟知した指導者や専門家が、普段の子どもの様子について評定します。
- 各項目について「ない」「まれにある」「ときどきある」「よくある」のいずれかを選択して回答します。
- 各領域の粗点合計から、手引書の換算表を用いてパーセンタイル段階（「つまずきあり」「つまずきの疑い」「つまずきなし」の3段階）を求め、プロフィールにプロットすると、その子どもがどの学習領域でつまずいているかが一目わかります。このプロフィールをもとに、「LDの可能性が高い」「LDの可能性はある」「LDの可能性は低い」の3タイプに分類します。

〈項 目 例〉

	ない	まれにある	ときどきある	よくある
1. とても早口である。……………	1	2	3	4
2. ひらがなを間違えて書く。……………	1	2	3	4
3. 授業中に席を立ったり、歩き回ったりする。……………	1	2	3	4

〈プロフィールの例〉



■利用のしかた

- 子どもがどの学習領域でつまずいているかを把握できますので、その後の具体的な教育指導への手助けとなります。
- LDの最終的な判断をするためには、医学的、教育的、心理学的側面からの総合的な評価が必要です。本調査票はLDの早期の気づきを目的としていますので、さらに詳しい情報を得るためには知能検査等の精査が必要です。